

『前田遺跡』 まえだいせき

昨年、青森県の三内丸山遺跡をはじめとした北海道・東北の縄文遺跡群が世界遺産に登録されました。この中で秋田県の大湯環状列石や青森県の小牧野遺跡など4遺跡は環状列石がある遺跡として有名です。環状列石とはストーンサークルとも呼ばれ、石を直径30〜40メートルの円形に配置したものです。それぞれ作られた時期は違いますが、概ね縄文時代前期末（約6000年前）から後期前半（約4200年前）にかけて作られています。なぜ作られたのか、その詳細は完全には分かっていません。これまで墓地説や祭事場（祭りごとを行う場）説などが有力視されてきましたが、最近では天体運行に関連する説も唱えられるようになってきました。

船引町北鹿又にある前田遺跡では、1968（昭和43）年の発掘調査で環状列石が見つかり、当時としては日本最南

端の環状列石遺跡として、すぐに福島県指定史跡となりました。現在では、静岡県や長野県など東日本の各地で発見されているため、日本最南端ではなくなりました。

同年の調査は環状列石全体に及んでいなかったことから、2000（平成12）年から、2004（平成16）年にかけて新たに発掘調査を行ったところ、残念ながら列石は半周しか巡っていませんでしたが、その際に環状列石の外側から縄文時代中期（約5000〜4000年前）の竪穴住居跡が50軒見つかりました。この時の調査は環状列石を中心に行ったため、前田遺跡と推定される範囲全体を調査することはできませんでしたが、すべてを調査した場合、250軒以上の竪穴住居跡が見つかる可能性があります。また、これまで福島県内でもほとんど出土したことがない2つの口を持った双口土器（市指定）

と呼ばれるものや上方が円形で注ぎ口が付き、下方が四角形の注口土器など非常に珍しい土器が出土し、通常の縄文時代の遺跡とは違った性質を持つことがわかりました。これらの土器は通常の生活に使用するものとは違い、何らかの祭事に使用されることが多いとみられています。また、前田遺跡の環状列石は一度にすべての石を並べたものではなく、直径1〜2メートル程度の石群がいくつも並べられて半周しており、それぞれの石群の下位には穴が埋められた状態でした。いくつか調査した穴の中からは鹿やイノシシの骨が出土しており、当時暮らしていた縄文人が、自分たちの食料となった動物を供養するため、環状列石を作ったとみることができるとされています。そして環状列石の西側には通常の生活に使用したとは考えら

れないほどの非常に巨大な炉（煮炊きする場）が見つかったりすることなどから神様が与えてくれた食料への感謝を込めて祭りごとが行われていたようです。

市内には前田遺跡のほかにも多くの遺跡があり、都路町の石橋遺跡は縄文時代前期の遺跡として市指定史跡になっており、今月竪穴住居跡が復元される予定です。

市内から出土した土器の一部を船引公民館で展示しています。



1



2

1 前田遺跡
2 前田遺跡出土双口土器

今回は、「石造物 -市指定有形文化財7基を中心に-」を紹介する予定です。
田村市の文化財一覧はこちら▶▶▶



地域おこし協力隊 全員集合！

私たちの仲間を紹介します！

皆さん、こんにちは！ 田村市地域おこし協力隊です。私たちは、2018年からテラス石森（旧石森小学校）を拠点に活動しています。今回は、4月から私たち地域おこし協力隊と一緒に活動している仲間である大学生・服部諒さんをご紹介します。

▼服部諒さんプロフィール

岐阜県高山市出身。横浜市立大学国際教養学部4年。幼少期に、山や川でよく遊んでいた経験から「自然」や「環境」に対する関心が高まり、大学入学後は環境問題や自然資源にまつわる国際紛争について研究。さらに、身近な「地域課題」にも目を向け、都会の子どもと自然との距離に着目したビジネスプランを起案し、第18回キャンパスベンチャーグランプリ東京大会（※1）で奨励賞を受賞。その後、受賞プラン実現の土台づくりのため、田村市をフィールドとして選び、大学を休学し、今年の4月、田

村市に移住。現在は、一般社団法人Switchのスタッフとして、地域おこし協力隊と協力しながら活動中。

服部さんは、移住後間もない5月22日に、親子参加型のイベントを主催されました。イベントタイトルは「モリのび」。子どもたちが森でのびのびと遊ぶ姿が想像できる、なんとも親しみやすいネーミングセンスです。場所は、かつて子どもたちの遊び場があった常葉町の殿上山。市民の皆さんの中にも、幼少期に殿上山で遊ばれたという方も多いのではないのでしょうか。

この「モリのび」は、神奈川県逗子市にある「原っぱ大学」(※2)から講師をお招きし、震災や老朽化によって撤去されてしまった遊び場を再生すべく、竹や廃材を使ったすべり台、また、ヒミツ基地をつくるという、ワクワクが詰まった内容でした。子どもたちは、トンカチやペンキ

を使いながら、思い思いに遊び場をつくり、親御さんも童心に返って一緒に遊び、たくさんの笑顔があふれる最高の時間になりました。当日は30人以上が参加し、中には県外から移住された方もいて、新たなつながりも生まれました。移住から開催まで、かなりのスピードでイベントを開催した服部さんですが、早速、頼もしい姿を見せてくれました。このイベント「モリのび」は今後も続いていきますので、服部さんの活躍とともに、ぜひ注目してください。

「服部さんからのメッセージ」

ヨソ者でワカ者である私だからこそ、チャレンジできることがあると考えています。今後も田村市の山林資源を生かして、地域と子どもと森をつなぎ、コミュニティの輪を広げていくことで新しい価値を田村で創っていったらと思っています。次は、ハンモック？ ツリーハウス？ キャンプ場？・・・と、今から何をやるのかとワクワクしています。これからもみんなでアイデアを出し合いながら、遊び場をつくっていきま〜！ 次回の開催をお楽しみに！



※1 キャンパスベンチャーグランプリ：大学・大学院・短大・高専・専門学校を対象にした日本最大級の学生ビジネスコンテスト。
※2 原っぱ大学：「親子のための遊びの学校」をコンセプトに、逗子、佐倉、大阪の三つのフィールドを舞台に、森で自由に遊べるコンテンツの創出を行っている。